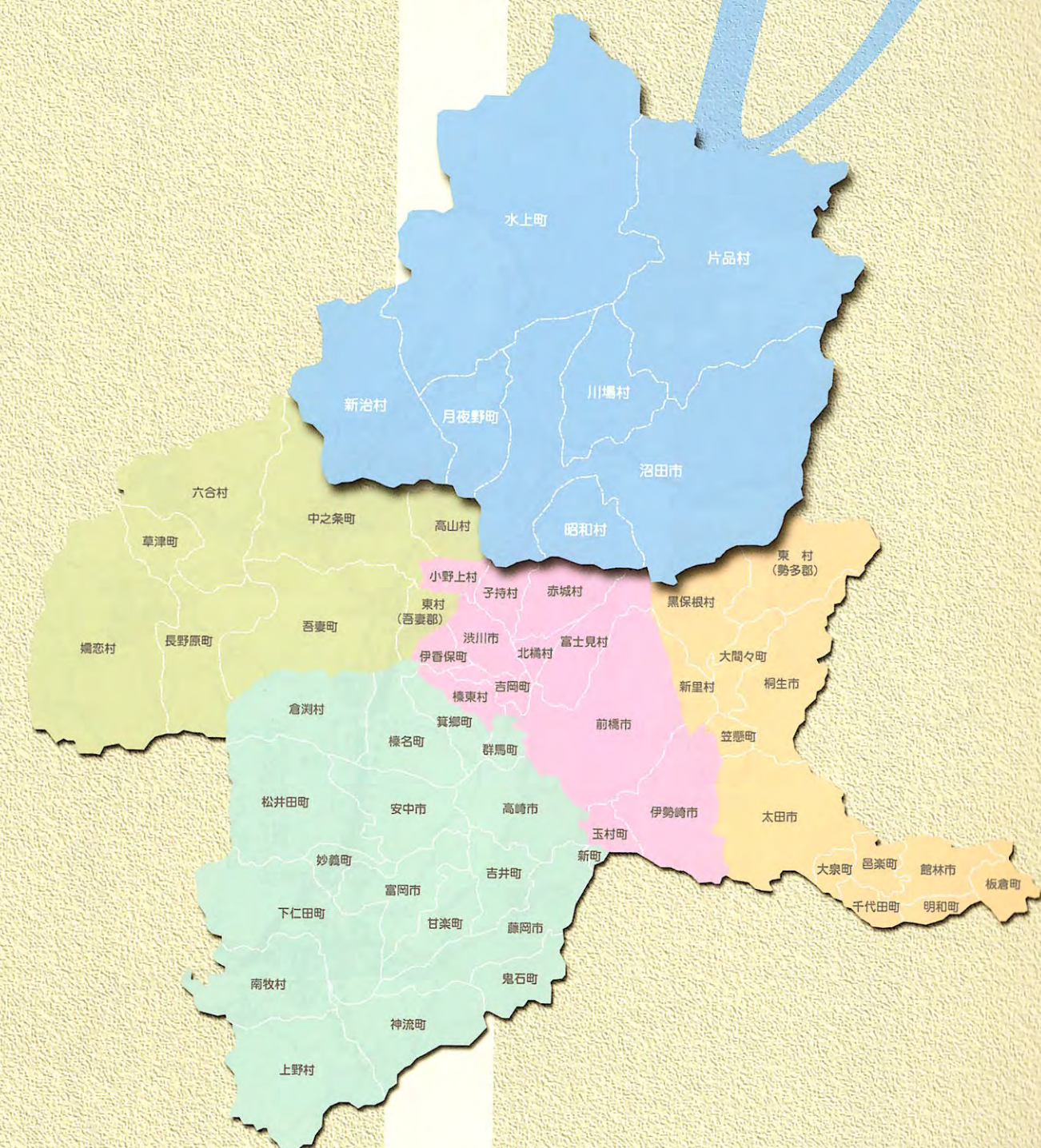
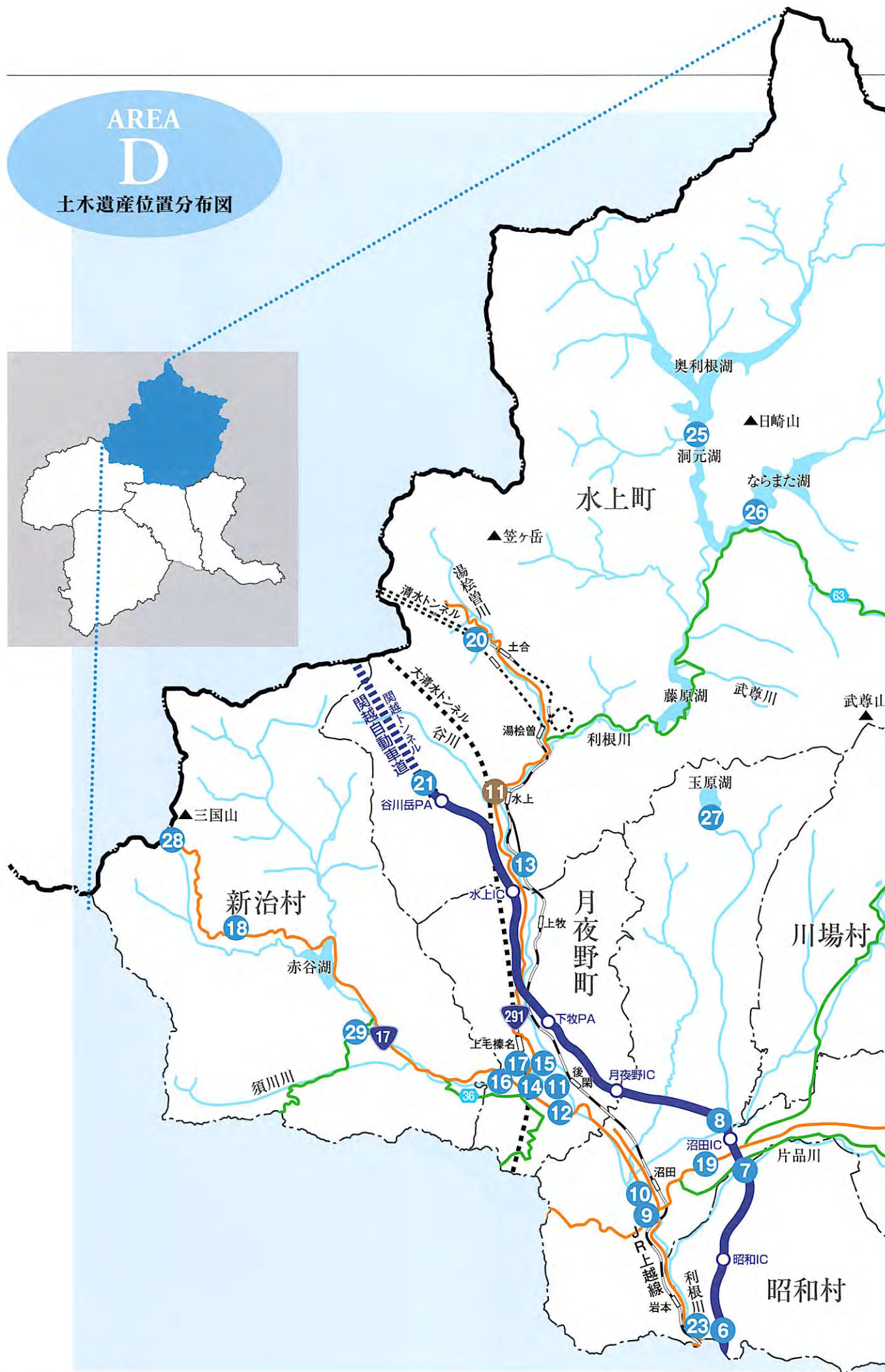
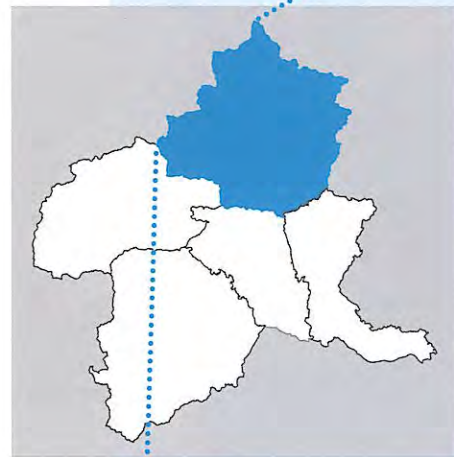


GUNMA AREA



AREA D

土木遺産位置分布図



- | | |
|------------------|-----|
| 1 尾瀬大橋 | 124 |
| 2 尾瀬古仲橋 | 126 |
| 3 吹割大橋 | 127 |
| 4 吹割橋・浮島橋 | 128 |
| 5 内楽橋 | 130 |
| 6 永井川橋 | 131 |
| 7 片品川橋 | 132 |
| 8 薄根川橋 | 134 |
| 9 第5利根川橋梁 | 135 |
| 10 西中通学橋 | 136 |
| 11 月夜野橋 | 137 |
| 12 月夜野大橋 | 138 |
| 13 諏訪峡大橋 | 140 |
| 14 小袖橋 | 142 |
| 15 岩本発電所用通路橋 | 143 |
| 16 黒岩橋 | 144 |
| 17 赤谷川橋梁 | 145 |
| 18 新三国大橋 | 146 |
| 19 城堀川 (滝坂川) | 147 |
| 20 清水トンネル | 148 |
| 21 関越トンネル | 150 |
| 22 金精トンネル | 152 |
| 23 綾戸ダム | 153 |
| 24 丸沼ダム | 154 |
| 25 矢木沢ダム (奥利根湖) | 156 |
| 26 奈良俣ダム (ならまた湖) | 158 |
| 27 玉原ダム (玉原湖) | 160 |
| 28 三国峠の道 | 162 |
| 29 須川宿 | 164 |
| 11 谷川橋 | 198 |
| 12 南郷堰堤 | 199 |

凡例

- | | |
|--|------|
| | 高速道路 |
| | 国道 |
| | 県道 |

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000 (地図画像) を使用したものである。 (承認番号 平17総使、第377号)

尾瀬大橋 おぜおおはし

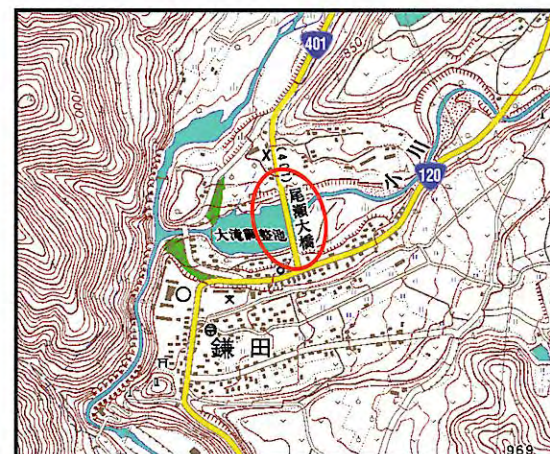


概要

所在地 利根郡片品村鎌田
路線名 国道401号
年代 平成8年（1996）
構造形式 2径間連続PC斜張橋
主要諸元 橋長233.0m 幅員13.3m
管理者 群馬県



ミズバショウが咲き誇る春の尾瀬原



(縮尺 1/25,000)

関連DATA



尾瀬大橋施工プロセス1



尾瀬大橋施工プロセス2



尾瀬大橋施工プロセス3



仙境尾瀬沼花の原

尾瀬大橋は、この橋が尾瀬への玄関口にあたることから橋脚と主塔の形状を尾瀬に咲く「水芭蕉」をイメージに設計された橋梁です。橋の構造は2径間連続PC斜張橋と呼ばれる構造で、主塔から左右に伸びた二面吊りのケーブルで橋桁を支えています。この橋の架橋地点は、国道401号が大滝川調整池（東京電力（株））を横架する地点で、美しい山並みに囲まれた湖面に高くそびえる主塔は美しい景観を形成しています。

尾瀬大橋が架かる片品村は群馬県の東北部に位置し、栃木県、福島県、新潟県と接しています。周囲を日光白根山、至仏山、武尊山、笠ヶ岳など2000mを超える山々に囲まれた山村ですが、自然の宝庫「尾瀬」への玄関口として、また村内に6ヶ所あるスキー場など観光リゾート地としても知られています。山々には白樺やブナの原生林が生い茂り、丸沼高原には神秘の湖「丸沼」が、日光白根山にはシラネアオイの里が、武尊山にはレンゲツツジが咲き誇るなど、豊かな自然環境に満ちた村でもあり、まさに片品村は「自然のふるさと」のキャッチフレーズがよく似合う村です。

片品村を通る国道120号は、ヨーロッパのロマンチック街道に倣って、日本ロマンチック街道として昭和62年（1987）に制定されました。この街道は長野県小諸市を起点に、軽井沢町、草津町、沼田市を経て、日光市に至るルートで、現在では周辺の市町村が参加していくつかの横道もでき、総延長350kmの街道となっています。古き時代の城下町や宿場町を通過し、さらに四季折々の彩りを見せる上信越高原国立公園や日光国立公園のなかを縦断する日本ロマンチック街道は、高原、滝、湖沼、湿原などとともに火山の造山作用による自然の造形美を満喫できる、歴史と自然史の街道と言えます。

尾瀬大橋が架かる小川の美しいせせらぎには、貴重な水生昆虫が多数存在し、自然観察や水遊びなどを楽しむ子供達の遊びのスポットでもあります。

尾瀬古仲橋 おぜこなかばし



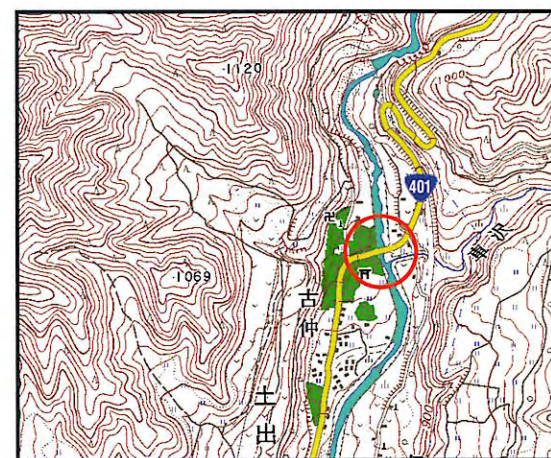
尾瀬古仲橋は河川を横断する橋桁を、この橋桁と約40度の交差角で交差する鋼アーチ桁から伸びる鋼製のワイヤーで吊る構造の橋です。この構造と類似する橋梁に羽田空港のスカイブリッジがありますが、国内でも珍しい構造の橋です。自然の宝庫として有名な尾瀬に繋がる橋として是非一度は渡ってみたい橋でもあります。

概要

所在地	利根郡片品村土出
路線名	国道401号
年代	平成13年(2001)
構造形式	鋼アーチ式斜張橋
主要諸元	橋長82.0m 幅員14.3m
管理者	群馬県



花々が咲き乱れる夏のスキー場



(縮尺 1/25,000)

吹割大橋 ふきわれおおはし



古くからの街道である沼田街道に架かる吹割大橋は、片品川の清流と瀑布が刻む自然の芸術「吹割の滝」を擁する吹割渓谷の下流に位置する橋梁です。江戸時代、この地には甲州(山梨県)の猿橋と同じ形式の「はね橋」が架橋され、人々の往来に供されていました。この橋の上流には「鱒飛の滝」や「獅子岩」などの奇勝があり、新緑、紅葉の季節には四季折々の彩りとともに観光客を迎えてくれます。先代のコンクリート製橋梁も現在の橋の下流に残り、地域の人々の生活を支えています。

概要

所在地	沼田市利根町追貝
路線名	国道120号
年代	昭和54年(1979)
構造形式	鋼アーチ橋
主要諸元	橋長92.0m 幅員12.5m
管理者	群馬県



吹割の滝

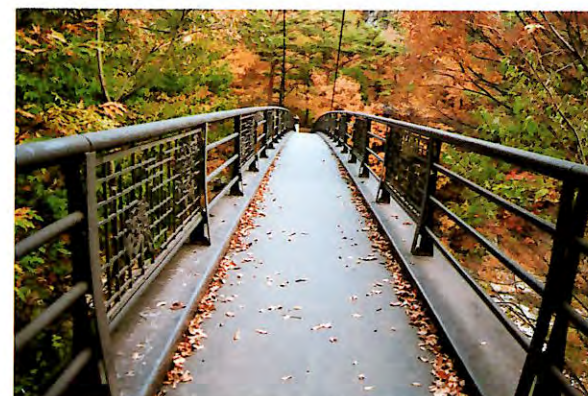


(縮尺 1/25,000)

吹割橋・浮島橋

ふきわればし・うきしまばし

関連DATA



吹割橋



左・浮島と浮島橋



吹割の滝

概要

- 所在地 沼田市利根町高戸谷～追貝
- 路線名 吹割渓谷遊歩道
- 年代 平成元年（1989）
- 構造形式 吹割橋＝鋼斜張橋 浮島橋＝重床式吊り橋
- 主要諸元 吹割橋＝橋長64.0m 幅員1.5m
浮島橋＝橋長68.5m 幅員1.5m
- 管理者 沼田市

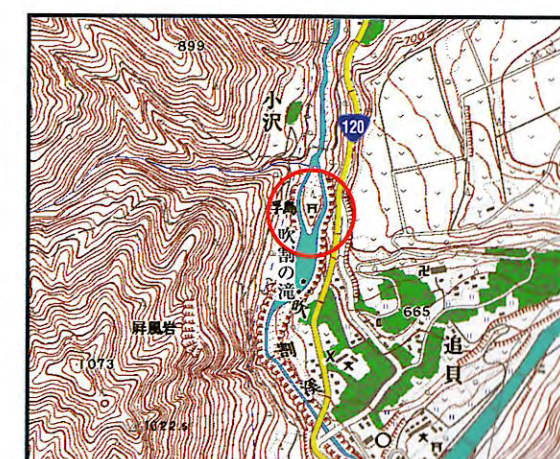
片品川の清流が緑色の凝灰岩や凝灰角レキ岩などを長い年月に浸食し、あたかも巨大な岩を吹き割ったように見えることから名づけられた「吹割渓谷」。吹割の滝や鱒飛の滝、獅子岩、千畳敷などの奇岩・奇勝の上流に浮かぶ「浮島」、この島を挟んで二つの橋が渓谷に架かっています。下流から見て左側に架かる橋が「吹割橋」で、美観を損なわないよう右岸側より斜めに立てた斜塔から1段2面吊りケーブルで橋桁を吊る鋼斜張橋が採用されています。一方、右側に架かる吊橋が「浮島橋」で、非対称形式の吊橋を採用しています。この二つの橋はそれぞれが個性的で、眼下を流れる清明な片品川の流れと渓谷美の中で感動的な美しさを見せています。

吹割大橋から観瀑台、詩の小径を経て、吹割橋を浮島に渡り、名工左甚五郎作の観音像が安置されている浮島観音堂から浮島橋を渡る「吹割渓谷遊歩道」は、四季折々の風情を旅人に見せ、無色透明の片品川の水は吹割の滝の底まで映し出し、この地を訪れる多くの観光客の人気を得ています。



滝は吹割 片品渓谷

た



(縮尺 1/25,000)



吹割橋



浮島橋

内 楽 橋 ないらくばし



沼田街道（現国道120号）と老神温泉郷とを結ぶ内楽橋は、片品川の美しい渓谷に架かる吊橋です。蕨原ダム
の建設に伴い昭和40年（1965）に架橋されたこの橋は、
往時の橋が木造の吊橋で、地域の人々の暮らしや観光を
支えるシンボルであったことから、その名残を後世に伝
承するために吊橋が採用されました。新緑の頃、朱色の
内楽橋が渓谷美に一層映えて観光客を迎えます。



老神温泉

概要

所在地	沼田市利根町老神
路線名	市道3112号
年代	昭和40年（1965）
構造形式	2ヒンジ補剛吊橋
主要諸元	橋長75.7m 幅員3.1m
管理者	沼田市



（縮尺 1/25,000）

永井川橋 ながいがわばし



永井川橋は、国内三番目の橋脚高75.7mを誇るプレス
トレストコンクリート橋として知られています。大空を
走る二本の伸びやかな橋桁は未来感にあふれ、シャープ
な躍動感を感じさせます。架橋地点付近の地形は、永井
川が赤城山麓の台地を浸食したことにより形成されたも
ので、このため架橋当時は日本一高い高橋脚を有する橋
として注目されました。

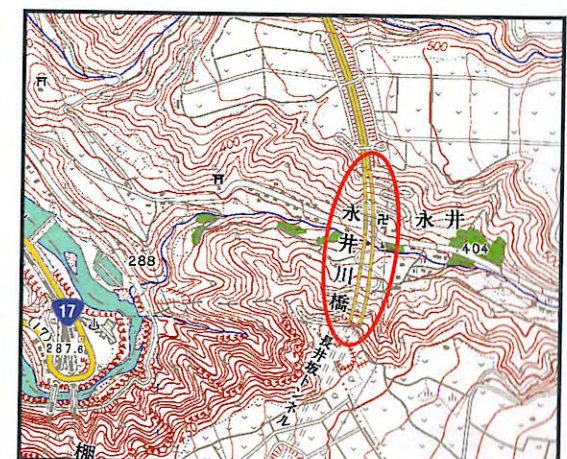
昭和60年度土木学会田中賞（作品部門）受賞。



えぐられた谷間を貫く永井橋、遠景

概要

所在地	利根郡昭和村永井
路線名	関越自動車道
年代	昭和60年（1985）
構造形式	5径間連続PC箱桁橋
主要諸元	橋長487.5m 幅員9.0m×2
管理者	日本道路公団



（縮尺 1/25,000）

片品川橋

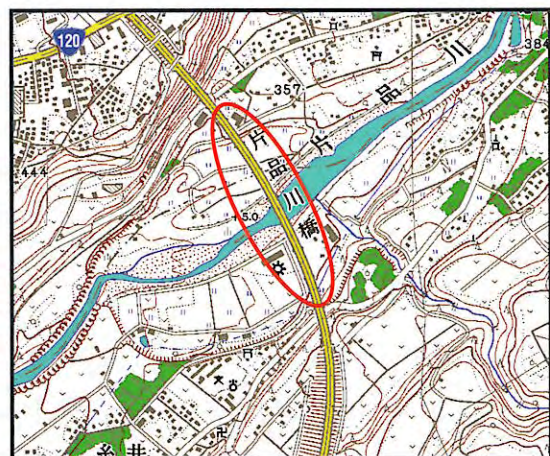
かたしながわばし



武尊の雄大な山並みを背景に、片品川をダイナミックに貫く

概要

所在地 利根郡昭和村糸井～沼田市下久屋町
路線名 関越自動車道
年代 昭和60年（1985）
構造形式 3径間連続鋼トラス橋×3連
主要諸元 橋長1033.8m 幅員9.0m×2
管理者 日本道路公団



(縮尺 1/25,000)

関連DATA



赤いトラスと白い橋脚のコントラストが印象的



橋下に立つとその雄大なスケールが感じられる



レタス畑が広がる昭和村景観

武尊の山並みを背景に、延々と続く赤い鋼トラス橋、白くそびえる橋脚が見事なコントラストを大空に描きだしている関越自動車道・片品川橋。ダイナミックなその姿は延長・高さともに我が国最大級の規模を誇る連続トラス橋です。

昭和60年（1985）に全線開通した関越自動車道は、首都圏と新潟方面を結ぶ大動脈として行楽時等には多くの車で混雑しています。片品川橋は沼田インターチェンジの手前に位置し、片品川が造り出した大きな谷を跨ぎ、複雑な地形の沼田台地と赤城山麓を連絡しています。このためこの橋は片品川橋の河床から路面までの高さが最高70mという非常に高い橋脚を有する橋となっています。関越自動車道を見守る新潟方面に向かい車を走らせると、突然広がる雄大な大自然のパノラマと片品川橋の壮大なスケール感には必ず人々に感動を与えることでしょう。

また、片品川と並行して走る県道から見る片品川橋や背景の武尊の山並みは、思わず写真のシャッターを切りたくなるほどの魅力に満ちています。武尊山は、日本武尊（ヤマトタケルノミコト）の伝説が残る山として、また古くより地域の人々の信仰の山としても知られています。四季の移ろいに利根川上流域の雄大な景観と調和し、四季折々に異なる豊かな風情を見せる片品川橋。橋上のドライブは大空を漂っているような気持ちにさせるさわやかな印象の長大橋です。昭和60年度土木学会田中賞（作品部門）受賞。



沼田天狗祭り

薄根川橋

うすねがわばし



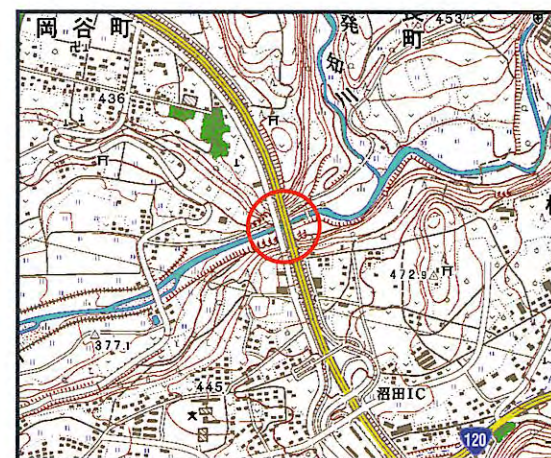
薄根川橋は、利根川の支流・薄根川の急峻なV字谷を横断する長大橋です。この橋の特徴は地形的な条件等から橋面から河床面までの高さが55mと高く、橋の構造が10:6と極端にアンバランスな不等径間となっていることです。このため橋の施工には国内初のピロン工法を併用する逆張出工法や架設用外ケーブル工法が採用されています。まさに橋梁技術の粋を集めて建設された人智の橋とも言えます。昭和58年度斉藤記念賞受賞。



最大非対称スパン比率10:6のT型ラーメン橋

概要

所在地	沼田市高橋場町～沼田市岡谷町
路線名	関越自動車道
年代	昭和57年(1982)
構造形式	2径間連続PCT型ラーメン橋
主要諸元	橋長(上り線)164.6m(下り線)160.1m 幅員9.0m×2
管理者	日本道路公団



(縮尺 1/25,000)

第5利根川橋梁

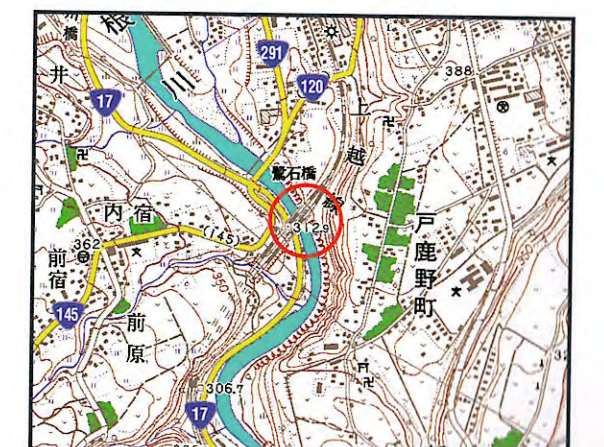
だい5とねがわきょうりょう



第5利根川橋梁の歴史は、群馬県近代化の歴史の1ページです。この橋の架橋は、当時の県内主要産業である絹の輸送等のため、それまでの舟運に替わる輸送手段として鉄道建設が急務となったことから、大正13年(1924)の上越線開通に伴って建設されました。上越線の誕生は県内の近代化を大きく推進することとなり、沼田市周辺から集積された大量の絹糸が汽車によって横浜へと運ばれました。明治・大正時代の構造物は、おしなべて重厚であるとともに洗練された風格をもっています。第5利根川橋梁もその時代を象徴するように、時代を超えて利根の流れに毅然としてその存在感を示しています。養蚕業が沼田市から消えた今も、石積みのモダンな橋脚は変わることなく上越線を支えています。

概要

所在地	沼田市戸鹿野町～下川田町
路線名	JR上越線
年代	大正13年(1924)
構造形式	6径間単純鉄桁橋
主要諸元	橋長113.6m 幅員2.2m
管理者	JR東日本



(縮尺 1/25,000)

西中通学橋 にしちゅうつうがくばし



木造の小さな吊橋・西中通学橋は、生徒達が安全に利根川を横断し、対岸の沼田市立西中学校に通学できることを願って架橋されました。この橋は、当時上越線の複線化工事を請負っていた建設会社間組が設計・施工し、寄贈したものと言われています。以来30数年間、幅80cmの木造吊橋は、音を立てて流れる利根川を渡る西中学校の生徒の成長を見守ってきました。この橋では風圧を低減するため床版に鋼製のエキスパンドメタルが採用されていますが、本四連絡橋の実験模型と同規模であることから、連絡橋設計の参考にされたという話も残っています。



老朽化に伴い通行止めになっている西中通学橋

概要

所在地 沼田市下川田町～沼田市薄根町
路線名 沼田市道サイクリング道路2号
年代 昭和44年(1969)
構造形式 木造吊橋(人道橋・通行止め)
主要諸元 橋長151.4m 幅員0.8m
管理者 沼田市



(縮尺 1/25,000)

月夜野橋 つきよのばし



古くよりこの地には真田藩が管理する渡船場が設置されていましたが、明治6年(1873) 橋長77.4m、橋幅3.6mの木造はね橋が架橋されました。「への字橋」と呼ばれた橋は、二度の流出を経て、明治32年(1899)に木と鉄骨を混合したトラス橋に生まれ変わりました。以来破損と修繕を繰り返しつつ50数年間の歴史を歩みました。現在の橋は昭和32年(1957)に国道17号の橋梁として架橋され、以来人々の生活を支えてきました。



月夜野橋のたもとで処刑された義人茂左衛門を祀る千日堂

概要

所在地 利根郡月夜野町月夜野
路線名 県道 月夜野・新治線(旧国道17号)
年代 昭和32年(1957)
構造形式 単純鋼トラス橋
主要諸元 橋長77.3m 幅員9.6m
管理者 群馬県



(縮尺 1/25,000)

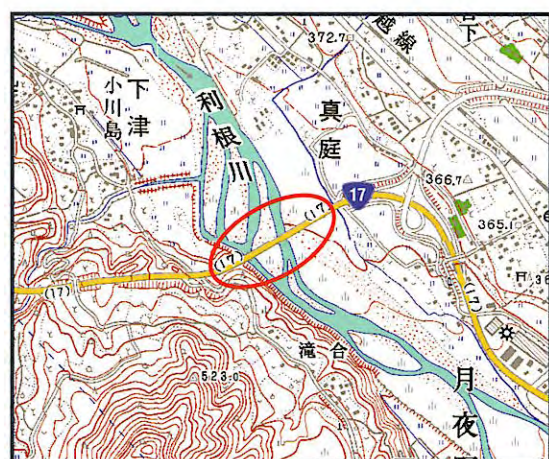
月夜野大橋 つきよのおおはし



桁下からの作業なしで施工中の月夜野大橋

概要

所在地	利根郡月夜野町真庭～月夜野町下津
路線名	国道17号
年代	昭和57年（1982）
構造形式	PC4径間連続有ヒンジラーメン箱桁橋 単純PC箱桁橋 3連
主要諸元	橋長431.9m 幅員9.8m
管理者	国土交通省



(縮尺 1/25,000)

関連DATA



月夜野IC側から見る月夜野大橋



橋上から見る真庭の街並み。かつての名胡桃城からの眺望でもある



往時の激戦の地、名胡桃城址



谷川岳遠景

沼田・月夜野市街地の国道17号の慢性的な交通渋滞を解消すると共に、利根川により町を二つに分断された月夜野町を一体化する月夜野大橋は、国道17号月夜野バイパス計画の一環として架橋された橋梁です。この橋については、国内で最初に「P&Z工法」という橋桁の架設工法が採用されたことから、多くの橋梁技術者の注目を集めました。「P&Z工法」は西ドイツで開発されたプレストレストコンクリート橋の架設工法で、橋脚と橋桁の一部を建設した後に、橋桁上に「移動架設桁」を設置し、その移動架設桁によって型枠装置を懸垂し、この型枠装置を利用してコンクリート桁を順次分割施工するという工法です。

この工法の特徴は、従来の工法と比較して3倍ぐらいの長さの桁を一度に製作できるなど効率的な施工性にあります。なお、移動架設桁の製作に多くの費用を要したことから、月夜野大橋に使用された移動架設桁は関越自動車道の利根川橋梁など数カ所で使用されました。月夜野大橋の架橋は、我が国のプレストレストコンクリート橋の架橋工法に一石を投じるとともに橋梁架設技術の向上に大きな貢献をしました。また、この工事の施工管理面では、工事中のコンクリートが生み出すひずみをカメラで計測し、コンピュータ処理する施工管理技術「VPSシステム」という当時最先端の技術が導入され、施工管理面の技術の向上にも大きく貢献しました。

これらの技術革新に対し、月夜野大橋の左岸側には、この画期的な架橋技術が我が国の橋梁技術の発展に貢献したことを伝える記念碑が設置されています。

昭和57年度土木学会田中賞（作品部門）受賞。

諏訪峡大橋

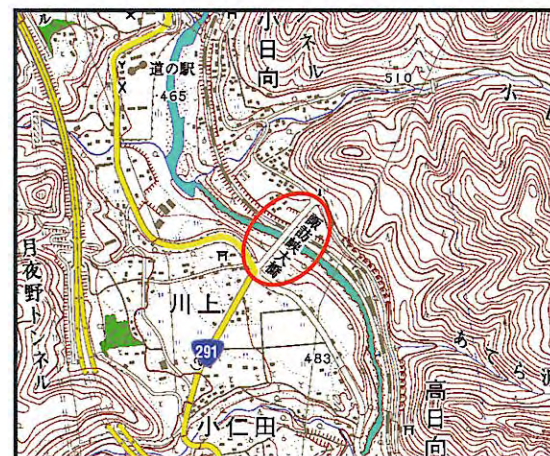
すわきょうおおはし



冠雪した谷川岳を背景に映える秋の諏訪峡大橋

概要

所在地 利根郡水上町川上～水上町小日向
路線名 町道 東原線
年代 平成6年（1994）
構造形式 2径間連続鋼斜張橋+2径間連続鉄桁橋
主要諸元 橋長234.0m 幅員11.8m
管理者 水上町



(縮尺 1/25,000)

関連DATA



谷川岳と利根川のコントラストが描く清冽な景観



諏訪峡遊歩道「笹笛橋」から見る諏訪峡大橋



色鮮やかな紅葉の諏訪峡



水上温泉全景

谷川岳を背景とし、奇岩・奇石が利根川の流れに浮かぶ水上町・諏訪峡は、素晴らしい渓谷美を持つ景勝の地です。諏訪峡大橋は、この渓谷に架橋された橋で、個性的な観光レクリエーション都市を目指す水上町のシンボル橋梁でもあります。

橋の形式は温泉郷「水上」のランドマークとして、また豊かな自然環境と調和する橋として、鋼斜張橋が採用されました。橋上の歩道は、観光イベントが可能なように片寄せにし、4.5mと広い幅員を有しています。また、主塔や斜めに張ったケーブルは夜間ライトアップし、観光地・水上の玄関口を諏訪峡の渓谷美とともにアピールしています。

水上町は、草津や伊香保と並ぶ群馬県内の三大温泉郷で、温泉は永禄年間（1558～1570）に発見されたと伝えられています。上越線が開通する以前は七橋七湯と呼ばれ、湯原、小日向、谷川、大穴、湯桧曾、湯ノ小屋などで旅人宿を営む程度の温泉郷でしたが、上越線の開通に伴い観光客が増加し、温泉街として発展しました。水上温泉の名称は、湯原温泉と小日向温泉の二つの温泉街が統合してできたものです。水上は温泉だけでなく、谷川岳を始めとする山岳登山のメッカでもあり、奥利根の湖沼や利根川の渓流など素晴らしい自然環境に恵まれたリゾートタウンとして、春の新緑、夏の避暑、秋の紅葉、冬はスキーなどのウィンタースポーツが楽しめる観光の地でもあります。

関越自動車道・水上インターチェンジから至近距離にある諏訪峡大橋は、旧建設省（現国土交通省）のマイロード事業の群馬県市町村道第1号の橋梁に認定されています。

小袖橋 こそでばし



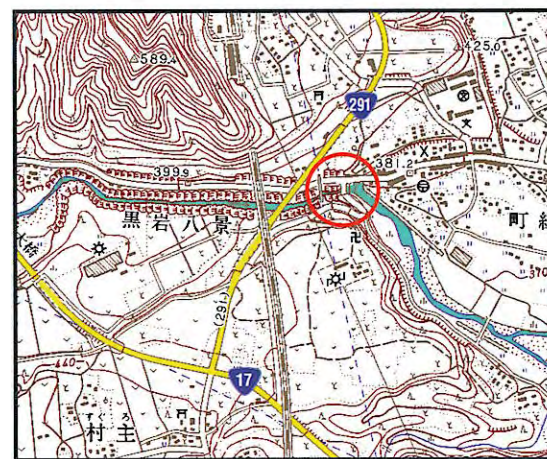
小袖橋は、文政6年（1823）月夜野の豪農小野善兵衛が自費をもって板橋・万年橋を架橋したことに始まります。以来、義援金を募っての架橋と流失を繰り返し、明治24年（1891）吊橋形式の橋が完成、これが初代小袖橋です。現在の近代的な鋼トラス橋は3代目で、昭和10年（1935）に完成しました。リベット接合による曲弦鋼プラットラス形式の重厚な姿は自然景観に溶け込み、地域の人々の暮らしに不可欠な橋として愛され続けています。



昭和10年（1935）の小袖橋開通式

概要

所在地	利根郡月夜野町月夜野～月夜野町上津
路線名	県道 小日向・上津沼田線
年代	昭和10年（1935）
構造形式	単純曲弦鋼プラットラス橋
主要諸元	橋長28.0m 幅員4.9m
管理者	群馬県



（縮尺 1/25,000）

岩本発電所用通水路橋 いわもととはつでんしょう つうすいろきょう



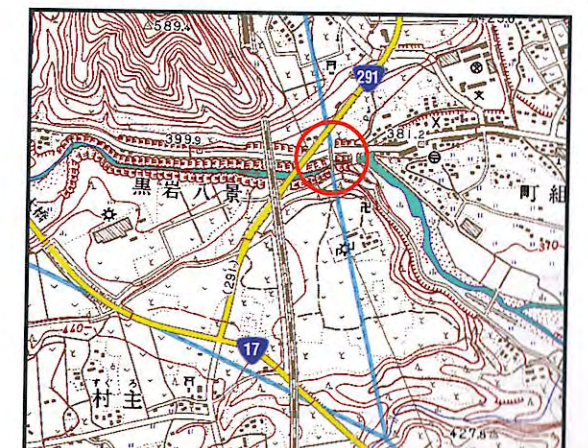
赤谷川の景勝地で知られる黒岩八景には、本橋のほか赤谷川橋梁・黒岩橋・小袖橋などが架橋されています。岩本発電所用水路橋は、岩本発電所の用水路橋として昭和24年（1949）3月に建設されたもので、美しい黒岩八景の景観と調和した3連のRCアーチ形式の水路橋です。

概要

所在地	利根郡月夜野町月夜野～月夜野町上津
取水口	利根川
年代	昭和24年（1949）
構造形式	3径間連続RCアーチ橋
主要諸元	水路橋
管理者	東京電力（株）



水路橋が黒岩渓谷を跨ぐ



（縮尺 1/25,000）